

第1回仙台市音楽ホール検討懇話会

次第8 - (1) 現状・課題と懇話会の役割

資料3、資料4、資料5

8 - (1) 現状・課題と懇話会の役割

- (1) (仮称) 音楽ホールの政策課題の経緯 ⇒ 資料3
 - <今日までの経緯>
 - ①楽都事業 概要
 - ②震災復興過程での音楽の力の発揮
 - ③音楽ホールに向けた市民的動き
- (2) 仙台市におけるホール施設の現状 ⇒ 資料4
 - ①大型ホールの現状
 - ②ホール施設の賦存状況
 - ③東北6県の大型ホールの動向
 - ④政令指定都市のホール状況
 - ⑤主要ホールの築年数
 - ⑥大型ホールの利用率
- (3) 仙台市音楽ホール検討懇話会での検討について ⇒ 資料5
 - ①検討体制
 - ②検討の項目

(1) (仮称) 音楽ホールの政策課題の経緯

<今日までの経緯>

【楽都仙台】

市民レベル、学校活動などでの合唱や吹奏楽などの音楽活動が活発
 1989 (平成元) 年 宮城フィルハーモニー管弦楽団が仙台フィルハーモニー管弦楽団と改称
 1990 (平成2) 年 仙台ジュニアオーケストラ設立
 1992 (平成4) 年 (仮称)仙台市音楽堂の基本構想策定に着手
 1995 (平成7) 年 「若い音楽家のためのチャイコフスキー国際コンクール」開催
 1996 (平成8) 年 (仮称)仙台市音楽堂 基本計画策定 ⇒その後財政状況により凍結

このころから「楽都」、「楽都仙台」を掲げるようになる

【音楽の力の認識、音楽ホールへ期待の高まり】

2009 (平成21) 年 前市長の選挙公約で「音楽ホールの検討」が取り上げられる
 2011 (平成23) 年3月11日 東日本大震災
 2011 (平成23) 年3月 仙台市基本計画の中で「音楽ホールの整備推進」について明記
 2011 (平成23) 年3月 仙台フィルと市民の有志が「音楽の力による復興センター」設立
 2011 (平成23) 年3月26日 仙台フィル 第1回復興コンサート開催以降継続開催
 2012 (平成24) 年1月 シンポジウム「音楽の力に本拠地を 新たな楽都の建設に向けて」復興提言シンポジウム実行委員会等主催
 2012 (平成24) 年9月 文化庁文化審議会文化政策部会提言『東日本大震災から学ぶ、文化力による地域と日本の再生』に仙台フィルの活動が「海外の文化団体も注目している。日本の文化の力を海外に発信すべき具体例」と紹介された。
 ※仙台フィルの活動は小学校6年生の音楽の教科書(教育出版)に掲載された。

「音楽ホール」整備への期待が高まり、広まってきた

【音楽ホール整備の具体化への取組みが動き始める】

2014 (平成26) 年7月 仙台経済同友会、仙台商工会議所、東北経済連合会、みやぎ工業会が連携し、「音楽ホール建設基金創設発起人会」が発足(基金には現在約1億2千万円の寄付が寄せられている)
 2015 (平成27) 年9月 「楽都・仙台に復興祈念『2,000席規模の音楽ホール』を！市民会議」が地元音楽団体を中心に設立される
 2016 (平成28) 年4月 NHK-Eテレにより、東日本大震災後の仙台フィルの活動を追ったドキュメンタリー番組「音楽になにができますか」が放映

2015 (平成27) 年度、2016 (平成28) 年度に基礎調査を実施した。

2017(平成29)年11月27日 (仮称)音楽ホールの整備に向けた検討を進めるため、「仙台市音楽ホール検討懇話会」を発足

①楽都事業概要1 <楽都仙台 政策的な楽都事業や楽都を支える主な団体>

■仙台国際音楽コンクール

- 仙台国際音楽コンクールは、若い音楽家の育成と世界の音楽文化の振興・国際的文化交流の推進を目的に、仙台市が開府400年を記念して2001年(平成13年)に初めて開催し、以後3年毎に開催している。
- ヴァイオリンとピアノの2部門で行われ、出場資格は本選開催年に満28歳となる者、又はそれより年少の者。
- コンチェルト(協奏曲)を課題曲の中心に据えるという点が大きな特徴となっており、2005年より国際音楽コンクール世界連盟に加盟している。
- コンクールは、予選、セミファイナル、ファイナルで構成され、主会場は、日立システムズホール仙台(仙台市青年文化センター)コンサートホール(802席)である。

■仙台クラシックフェスティバル

- 「せんくら」という愛称で親しまれている仙台クラシックフェスティバルは、クラシック音楽の普及と聴衆の拡大を目的に、「誰でも気軽に楽しめる音楽フェスティバル」として2006年より毎年秋に開催している。
- せんくらの開催にあたっては、仙台フィルハーモニー管弦楽団や仙台国際音楽コンクール、音楽活動を展開する多くの団体、これらを支援する多くの市民ボランティアなど、これまで仙台で育まれてきた音楽的財産を都市の魅力や活力の創出に繋げる「楽都仙台」としての取組みが活かされている。
- せんくらの期間中は、仙台市内の4つのホール、街なか、地下鉄の駅などで朝から晩までコンサートを開催される。各会場では、1公演45分又は60分の公演時間で、ピアノやオーケストラなどの公演、名曲を集めた公演、お子様も入場可能な公演、演奏家によるトーク付き公演など1日を通して様々なコンサートが開かれる。

■仙台フィルハーモニー管弦楽団

- 仙台フィルハーモニー管弦楽団は、1973年(昭和48年)に市民オーケストラ「宮城フィルハーモニー管弦楽団」として誕生した。1978年(昭和53年)に本格的なプロのオーケストラとして活動を開始し、1989年(平成元年)に「仙台フィルハーモニー管弦楽団」と改称した。
- 年間9回18公演の定期演奏会をはじめ、特別演奏会、依頼演奏会、市内の小中学生を対象とした音楽鑑賞会など、東日本エリアを中心に年間約110公演に及ぶ演奏活動を展開している。
- 2018年度に指揮者体制を一新し、常任指揮者のパスカル・ベロ、首席客演指揮者の小泉和裕が17年度末で退任。新たな常任指揮者に飯守泰次郎、レジデント・コンダクターに高関健、指揮者に角田鋼亮を迎える。

■仙台ジュニアオーケストラ

- 仙台ジュニアオーケストラは、仙台市の音楽文化の一層の振興と発展を図ることを目的に1990(平成2)年5月に発足した。団員は、公募による選考で選ばれた小学校5年生から高校2年生までの児童・生徒で構成されている。
- 音楽監督に平川範幸を、講師には仙台フィルハーモニー管弦楽団のメンバーを迎え、すべてのパートについてプロの演奏家の直接指導を受けている。日立システムズホール仙台(仙台市青年文化センター)を会場にして月3回程度の練習を行っている。活動の中心は、秋の定期演奏会と春のスプリングコンサートである。

①楽都事業概要2 <楽都仙台 市民が主体的に取り組む主な事業>

■定禅寺ストリートジャズフェスティバル

- 定禅寺ストリートジャズフェスティバルは、1991（平成3）年9月に第1回が開催されてから、秋の仙台の風物詩として市民に愛されるフェスティバルとなっている。
- 市民とボランティアが中心となって開催する街を舞台としたフェスティバルのモデルといわれる。
- ケヤキ並木の定禅寺通りをはじめ、仙台の街がステージとなり、ビルの入口、公開空地、商店街、公園、広場などがステージとなる。ジャンルはジャズやロック、ワールドミュージック、ゴスペルなど様々であり、演奏参加者にプロ、アマ、年齢などの制限はなく、国内外からの参加がある。

■仙台ゴスペル・フェスティバル

- 仙台ゴスペル・フェスティバルは、歌声に特化した、誰でもが気軽に参加でき、参加者と聴衆が一体となって楽しめる市民参加型のフェスティバル。ゴスペルソングに限定せず、アカペラやコーラス、弾き語り等、『歌声』を主にしていけばジャンルは問わない。
- 2002年（平成14年）から開催され、都心部を中心に複数のステージが設けられる。定時には全てのステージで同時に同じ歌を歌うなど、「歌声が街中に響き、歌い手、聞き手が共に元気になる、心に寄り添う歌声祭典」（公式HP）である。

■とっておきの音楽祭

- とっておきの音楽祭は、「障害のある人もない人も一緒に音楽を楽しみ、音楽のチカラで、『心のバリアフリー』を目指す音楽祭」（公式HP）である。例年6月初旬に、市内都心部に複数のステージを設け、開催されている。
- それぞれが違うことをお互いに認めあい、それを尊重すること。「みんなちがって みんないい」を大切な合い言葉にしている。
- 2001（平成13）年に仙台ではじまったこの音楽祭にならって、日本各地で「とっておきの音楽祭 in○○」などが開催されるようになっている。

②震災復興過程での音楽の力の発揮

■復興コンサート 700回を超える実績（2017年9月現在）

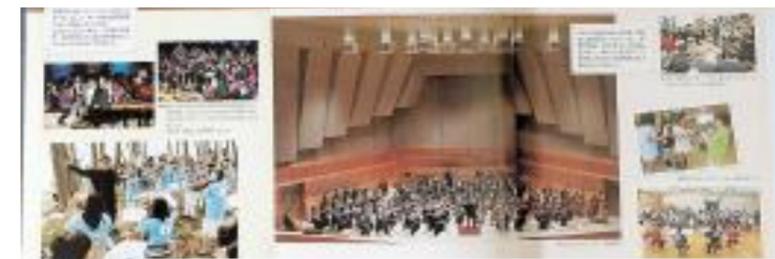
- 東日本大震災から2週間後、まだいわゆる自粛ムードが広がっていたころ、仙台フィルハーモニー管弦楽団と市民有志が「音楽の力による復興センター」を設立（2012年9月には一般財団法人に、2014年4月には公益財団法人となって現在に至っている）、そして3月26日に第一回復興コンサートを開催した。この復興コンサートは2017年9月現在までに700回を超えて開催されてきている。
- この「(公財) 音楽の力による復興センター・東北」の取組みは、鎮魂、癒し、励ましだけではなく、人と人のつながりを創り、コミュニケーションを興し、自立の支援につながり、心の復興、さらには復興から未来に向かう心を強くするものであると評価されている。また、プロフェッショナルな音楽家にとっては、高い専門性のある音楽の提供だけではなく、被災者に寄り添って、あるべき時に、あるべき場所で、あるべき音楽を提供する役割を認識させ、音楽の「新たな社会的役割を開拓」し、市民と共有する音楽の新しい価値を広めたといわれる。

■世界に発信すべき取組みとしての評価

- この取組みは、例えば文化庁文化審議会文化政策部会提言「東日本大震災から学ぶ、文化力による地域と日本の再生」（2012年9月）にも取り上げられ、仙台フィルハーモニー管弦楽団の活動は、『海外の文化芸術団体も注目している。日本の文化の力を海外に発信するにあたり紹介すべき具体例の一つ』と具体的に記述された。
- また、2015年度から使われている小学校の6年生の音楽の教科書（教育出版）に紹介された。
- この仙台フィルハーモニー管弦楽団及び「音楽の力による復興センター・東北」の取組みは震災復興における文化芸術の果たした役割の一つの例に過ぎない。多くの多様なジャンルの文化芸術団体、アーティスト、大学等機関などが被災地に入り、市民に寄り添い、文化芸術を届け、それぞれに大きな役割を果たしてきていることは言うまでもない。

【復興過程における音楽・芸術の力が教科書に掲載】

- 6年生の音楽の教科書（教育出版発行）で震災復興への音楽の取組みが取り上げられた。被災地で演奏活動を続ける仙台フィルハーモニー管弦楽団の活動が記述されている。
- 5, 6年生の図画工作下巻（日本文教出版発行）では、復興におけるアート活動を取上げ、宮戸小学校（宮城県東松島市）の児童の創作活動が紹介されている。



教育出版、日本文教出版社HP、河北新報電子版を参考にさせていただいた

③音楽ホールに向けた市民的動き

■経済団体、音楽団体の動き

- 2012年1月に復興提言シンポジウム・音楽は発信する「音楽の力に本拠地を 新たな楽都建設に向けて」が復興提言シンポジウム実行委員会や音楽の力による復興センター（当時は任意団体）等の主催で開催され、音楽ホールの必要性和継続的なシンポジウム開催が提起された。
- 2013年4月には第2回目として阪神・淡路大震災からの復興のシンボルとして整備された「兵庫県立芸術文化センターの軌跡を徹底研究」が開催された。同年の10月には仙台経済同友会が「震災復興第4次提言」を行い、そのなかで心の復興のための音楽ホール建設が提案され、3年間で10億円を目標とした「音楽ホール建設基金」を創設することが表明された。
- 2014年7月に仙台経済同友会、仙台商工会議所、東北経済連合会、みやぎ工業会が連携し、「音楽ホール建設基金創設発起人会」が発会した。3つのコンセプト「楽都・大震災メモリアル」、「まちづくり・経済活性化」、「2,000席規模の音楽ホールを市内中心部に」のもと、「東日本大震災復興祈念音楽ホール建設基金」が設置された。
- さらに、2015年9月「楽都・仙台に復興祈念『2,000席規模の音楽ホール』を！市民会議」が設立された。市民会議では、「新たな音楽ホールの実現を強く訴えるとともに、この取り組みに対する県民・市民の幅広い支持を得るための様々な活動を展開する」としている。

【音楽ホール建設基金が提起する音楽ホールのコンセプト】

- 1) 規模・立地について
 - クラシック等に優れた音楽環境を有するとともに、コンサート等の収益性を確保できる2,000席規模の音楽ホールを仙台市中心部に建設します。
- 2) 音楽による「こころの復興」
 - 仙台市内に充実した音楽ホールを建設し、震災前から培われた楽都・仙台を、さらに一歩、前へ進めたく多くの皆様のご賛同とご支援をお願い申し上げます。
- 3) 交流人口の増加と都市機能の向上
 - 世界トップレベルの音響設備を有し、日本を代表するような音楽ホールを整備することで、世界中の交響楽団の招聘が可能になり、復興を実感し、交流人口の増加と都市機能の向上を通じて仙台、宮城、ひいては東北全体の復興加速化が期待できます。

【市民会議が提起する音楽ホールのコンセプト】

- 1) 規模・立地について
 - 将来にわたって国内外の主要演奏会等を可能にするため、2,000席規模の音楽ホールを実現し、安定的な運営を行います。立地は多くの来場者がアクセスしやすいことを前提に、仙台都市圏のみならず東北地方全体からのアクセスに応えるため、市内中心部に建設します。これは演奏者側のニーズも同様です。
- 2) まちづくり・経済活性化
 - 音楽ホールをまちづくりと連動する地域の大きな「魅力」と位置付け、周辺地域と連動して地域経済活性化の契機となるよう充実した運営・プログラムの実現、求心力の高いホットポイントを構築します。
- 3) 楽都・大震災メモリアル
 - 楽都としての音楽資源の蓄積、大震災以降の復興に果たした音楽の新たな役割等、仙台の深く豊かな文化風土を、世界に向けて発信する音楽ホールを目指します。また復興の未来を担う子どもたちと音楽を、さらに強く結びつけるため、楽都事業展開の拠点としての役割も担います。

(2) 仙台市におけるホール施設の現状

①大型ホールの現状 ～非常に貧弱な状態 1,500 席クラスのホールしかない～

- 仙台の大型ホールは宮城県民会館（東京エレクトロンホール宮城）（1,590 席）と仙台市泉創造文化センター（仙台銀行ホールイズミティ 21）大ホール（1,450 席）のみである
- イベントホールである仙台サンプラザホール（最大 2,710 席）は舞台設営等をして公演が可能（その場合 2,054 席）であり、電気音響等を駆使するポップスなどの拠点だが、それらに利用用途が限定される



宮城県民会館(東京エレクトロンホール宮城)
ホール(多目的)
1964(昭和39)年開館 1,590 席、青葉区国分町



仙台市泉創造文化センター(仙台銀行ホールイズミティ 21)
大ホール(多目的)
1987(昭和62)年開館 1,450 席、泉区泉中央



仙台サンプラザホール(可変イベントホール)
1991(平成3)年開館 最大 2,710 席可変、宮城野区榴岡

②ホール施設の賦存状況 ～専門・多機能ともに大型のものが無い～

- 小型のホールは比較的充実しているが、大型ホールは、専門ホールだけでなく、多機能ホールもない状態
- 楯円で囲まれた施設はこれまでも様々な機会に関係団体等から、整備の要請などがあつた施設群である

③東北6県の大型ホールの動向 ～5県は2,000 席級ホールが揃う～

- これまで 2,000 席級のホールが無かつた山形県、秋田県で建替え更新により整備されることが決まった。宮城県・仙台市のみが無い状態が続くことになる

【仙台のホール施設の現状と整備要望のある施設群】

(単位標記が無い場合:席)

| 規模 | ～500 席 | 501～1,000 席 | 1,001～1,500 席 | 1,501～2,000 席 | 2,001 席～ |
|-----------------------|--|--|---------------------------------|---|--|
| ジャンル | | | | | |
| 音楽指向 | 宮城野区文化センター パトナホール(384) | 仙台市青年文化センター コンサートホール(802) 東北福祉大学音楽堂(739) | 東北大学森ホール(1,235) | | 大型 音楽専用ホール |
| 演劇指向 | 宮城野区文化センター パトナシアター(198) せんだい演劇工房10-BOX 能-BOX | 仙台市青年文化センター シアターホール(584) | | | 舞台芸術劇場 |
| 多目的 | 市民会館小(500) イズミティ21(小:408) シルバーセンター(304) 福祉プラザ(302) 戦災復興記念館(270) | 電力ホール(1,000) 国際センター(1,000) 若林区文化センター(700) 太白区文化センター(442～674) 広瀬文化センター(600) | イズミティ21(大:1,450) 市民会館(1,310) | 宮城県民会館(1,590) | 大型多機能ホール |
| フリー スペース (定員換算) | メディアテーク・オープンスクエア(300) 仙台市青年文化センター 交流ホール(300) エルパーク仙台ギャラリーホール(248) エルパーク仙台スタジオホール(190) 仙台市青年文化センター エッグホール(92) | accel hall(スタンディング:900、椅子:650) ネ！ットU多目的ホール(600) | 仙台FIT(1,500) | | ライブ エンター テイメント 大型 ホール |
| ライブ ハウス | RIPPLE(500) 仙台 CLUB JUNK BOX(400) Darwin(367) 仙台 MACANA(250) Hook SENDAI(250) SENDAI BIRDLAND(150) LIVEHOUSE em Ind,2nd,3rd 仙台 FLYING SUN | Rensa(700) | | | |
| その他 | MOX(音楽練習場) | | | 夢メッセみやぎ西館 (1,290 m ²) | 仙台サンプラザ(2,710) ゼビオアリーナ(4,009) 夢メッセみやぎ(7,500 m ²) |
| | | | | 市外:セキスイハイムアリーナ(7,051) 市外:ひとめめいスタジアム宮城(約5万) | |

※仙台サンプラザホールはイベントホールとしてその他に整理

【東北圏での 2,000 席級ホール整備の動向】

■山形県西口拠点施設 整備

- 山形県民会館(1,496 席)の後継施設として、山形駅前(山形テルサ横)に 2,001 席の大ホールを含む文化施設(延床面積約 15,600 m²)を整備中。入札不調が続き着工が遅れたが、建築がはじまり、2019～20 年の開館を目指している

■秋田県・秋田市 県市連携による新たな文化施設 整備

- 秋田県民会館(大ホール 1,839 席)、秋田市民会館(大ホール 1,188 席、小ホール 400 席)を統合し、県民会館跡地に県・市連携の複合施設を整備する(大ホール 2,000 席と中ホール 800 席、小ホールは整備しない)
- 延床面積約 22,500 m²程度、2021～22 年開館を目指している

★これらにより、東北6県では、宮城県・仙台市を除き、他5県に2,000 席級のホールが整うことになる

- 青森県:青森市文化会館(大ホール 2,037 席)
- 福島県:郡山市民文化センター(大ホール 2,004 席)
- 岩手県:岩手県民会館(大ホール 1,993 席)

④政令指定都市のホール状況 ～2,000席級ホールが無いのは仙台市だけ～

※固定座席・舞台を有するホール

- 政令指定都市で比較すると、2,000席級ホールが無いのは仙台市のみであり、汎用的に使えるオペラ劇場と多機能ホールともに無い（熊本市は熊本城ホール（大ホール2,300席）を整備中）

【政令指定都市における主要ホールの賦存状況（平成27年度調査時）】

（全国公立文化施設協会登録施設：舞台設備・固定座席を有するホール）

| 番号 | 都市名 | 人口1000人当 | | 中大規模(700～1199席) | | | | 大規模(1200～1699席) | | | | 特大規模(1700～2300席) | | | |
|----|-------|----------|----|-----------------|----------|-------|--------|-----------------|----------|-------|--------|------------------|----------|-------|--------|
| | | 全規模総座席数 | | 劇場 | コンサートホール | オペラ劇場 | 多機能ホール | 劇場 | コンサートホール | オペラ劇場 | 多機能ホール | 劇場 | コンサートホール | オペラ劇場 | 多機能ホール |
| | | 席数 | 順位 | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 札幌市 | 6.4 | 19 | | ● | | ● | | | | | ● | | ● | |
| 2 | 仙台市 | 15.3 | 5 | | ● | | ● | | | | | | | | |
| 3 | さいたま市 | 12.5 | 9 | ● | | | ● | | | | | ● | | ● | |
| 4 | 千葉市 | 7.8 | 17 | | ● | | ● | | | | | | | ● | |
| 5 | 川崎市 | 9.8 | 15 | | | | ● | | | ● | | ● | | ● | |
| 6 | 横浜市 | 10.2 | 13 | ● | ● | | ● | ● | | | | ● | | ● | |
| 7 | 相模原市 | 8.3 | 16 | | | | ● | | | | | ● | | ● | |
| 8 | 新潟市 | 14.8 | 6 | ● | | | ● | | | | | ● | | ● | |
| 9 | 静岡市 | 20.2 | 2 | | | | ● | ● | | | | ● | | ● | |
| 10 | 浜松市 | 14.8 | 6 | | ● | | ● | | | | | | ● | | |
| 11 | 名古屋市 | 11.8 | 12 | ● | | | ● | | | | | ● | ● | ● | |
| 12 | 京都市 | 12.3 | 10 | ● | | | ● | | | | | ● | | ● | |
| 13 | 大阪市 | 9.9 | 14 | ● | ● | | ● | | | ● | ● | | | ● | |
| 14 | 堺市 | 7.7 | 18 | | | | ● | | | | | | | ● | |
| 15 | 神戸市 | 17.4 | 3 | | ● | | ● | | | | | | | ● | |
| 16 | 岡山市 | 23.2 | 1 | | | | ● | | | | | ● | | ● | |
| 17 | 広島市 | 16.8 | 4 | | | | ● | | | | | ● | | ● | |
| 18 | 北九州市 | 12.7 | 8 | ● | ● | | ● | | | | | ● | | ● | |
| 19 | 福岡市 | 13.4 | 7 | ● | | | ● | ● | | | | ● | | ● | |
| 20 | 熊本市 | 12.1 | 11 | ● | | | ● | ● | | | | ● | | | |
| 全体 | | 12.0 | | | | | | | | | | | | | |

※仙台市には仙台サンブラザホール(最大2,710・舞台設當時2,054)があるが、イベントホールであり、ここでは固定座席と舞台を有する施設を対象としている。

※熊本市では熊本桜町地区第一種市街地再開発事業の中で2300席規模の大ホールを含む複合文化施設「熊本城ホール」を整備中である。

⑤主要ホールの築年数 ～老朽化している大型ホール～

【主要ホールの築年数】

| 施設名称(最大ホール座席数) | 開館年 | 2017年時築年数 | 備考 |
|-----------------|------|-----------|----------------|
| 電力ホール(1,000) | 1960 | 57 | 2002年改修 |
| 東北大学萩ホール(1,235) | 1960 | 57 | 2002年改修(旧記念講堂) |
| 宮城県民会館(1590) | 1964 | 53 | |
| 市民会館(1,310) | 1973 | 44 | 大小ホールは同時利用不可 |
| 戦災復興記念館(270) | 1981 | 36 | |
| イズミティ21(1,450) | 1987 | 30 | |
| エルパーク仙台(248) | 1987 | 30 | |
| 青年文化センター(802) | 1990 | 27 | 音楽・演劇専門ホールがある |
| 国際センター(1,000) | 1991 | 26 | |
| 広瀬文化センター(564) | 1991 | 26 | |
| 仙台サンブラザ(2710) | 1991 | 26 | |
| シルバーセンター(304) | 1992 | 25 | |
| 若林区文化センター(700) | 1993 | 24 | |
| 福祉プラザ(302) | 1994 | 23 | |
| 東北福祉大学音楽堂(793) | 1994 | 23 | |
| 太白区文化センター(674) | 1999 | 18 | |
| せんだい演劇工房 10-BOX | 2001 | 16 | 創造稽古場施設 |
| メディアテーク(-) | 2001 | 16 | |
| 能-BOX(-) | 2011 | 6 | 創造稽古場施設 |
| 宮城野区文化センター(384) | 2012 | 5 | 音楽・演劇各ホールがある |

⑥大型ホールの利用率 ～土日利用が多い大型ホールだが利用率は高い～

- 「地域の公立文化施設実態調査」(平成27年4月(公財)地域創造)によれば、全国公立ホールの平均で、利用可能日数304日、利用日数177日、利用率58.5%となっている。

【主要大型ホールの利用率(2016(平成28)年度)】

| 施設名称 | 利用可能日数 | 利用日数 | 利用率 |
|------------|--------|------|-------|
| 宮城県民会館 | 236 | 199 | 84.3% |
| イズミティ・大ホール | 332 | 231 | 69.6% |
| 仙台サンブラザ | 354 | 253 | 71.5% |

(3) 仙台市音楽ホール検討懇話会での検討について

①検討体制

1. 目的
 本市は、音楽の都「楽都仙台」を掲げ、これまで音楽分野の振興と音楽を介した魅力あるまちづくりに取り組んできたところであり、本市のシティセールスにも大きな役割を果たしている。
 このような楽都仙台の魅力を更に高めるとともに、楽都ならではの復興のシンボルとしての音楽ホールの整備に向け、ホールの機能や規模、立地条件等についての検討を行う。
 なお、この検討懇話会は、基本構想の前段階の検討と位置づけている。

2. 検討の仕組み

仙台市音楽ホール検討懇話会

3. 懇話会以降の流れ

| | |
|------------|----------|
| 平成 30 年度 | 検討懇話会報告書 |
| 平成 31 年度以降 | 基本構想策定 |
| | 基本計画策定 |
| | 設計者選定 |
| | 基本設計 |
| | 実施設計 |
| | 施工 |
| | 開館 |

②検討の項目

懇話会の検討項目について（想定）

I 懇話会検討の前提課題

1. 現状・課題と懇話会の役割

- (1) (仮称) 音楽ホールの政策課題の経緯
- (2) 仙台市におけるホール施設の現状
- (3) 仙台市音楽ホール検討懇話会での検討について

2. 現状・課題をふまえた主な論点と議論のための仮説の提示

- (1) 現状課題に対する2つの視点
- (2) 議論のための仮説

II (仮称) 音楽ホールの整備に向けて

1. 施設の考え方

- (1) 設置目的の考え方
- (2) 機能・施設の構成の考え方
- (3) ホールの特性と施設構成の考え方
- (4) 事業・活動の考え方
- (5) 管理・運営の考え方
- (6) 市内他ホールとの役割分担と連携の考え方
- (7) まち機能との連携、取込みの考え方
- (8) 施設規模の考え方
- (9) 次代を見据えたさらなる検討課題・提案

2. 立地の考え方

- (1) まち機能、まちづくりとの連携の考え方
- (2) 立地、敷地の考え方
- (3) 景観・修景や環境への配慮の考え方
- (4) 今後の都市仙台を見据えた検討課題・提案

3. 整備計画の考え方

- (1) 計画プロセスの考え方
- (2) 整備手法の考え方
- (3) 計画推進に向けた検討課題・提案

4. その他計画を進めていくための課題と考え方

※検討に応じて項目を追加・修正していく

※基本構想に向けて、前提与件の整理や基本的な考え方や方向性の提示、また、行政として整理しておくべき課題などの指摘などを行うことを想定